

# 令和4年度第1回鶴岡市児童福祉審議会（鶴岡市子ども・子育て会議）会議録

- 日 時 令和5年2月16日（木） 13時30分～15時30分
- 会 場 鶴岡市勤労者会館 1階 大ホール
- 出席委員  
郷守一幸／小杉隆／齋藤功／佐藤崇昌／佐藤豊継／増田康平／後藤重好／工藤仁／粕谷温子／小野俊孝／齋藤留吉／長谷川玲子／近藤比呂子／齋藤祐子／遠藤良司／小野寺浩美／齋藤祐子
- 欠席委員 小野寺崇／野口義明／山口安奈
- 市側出席職員  
健康福祉部長 渡邊健／子育て推進課長 渡会健一／子育て推進課主幹（兼）子ども家庭支援センター所長 五十嵐亜希／健康課長 伊原千佳子／福祉課長 佐藤尚子／学校教育課長 成澤和則／社会教育課長 沼沢紀恵／若者・子育て世代応援推進室長 上野修／藤島庁舎市民福祉課長 長谷川郁子／朝日庁舎市民福祉課長 佐藤智井／温海庁舎市民福祉課長 加藤早苗／羽黒庁舎市民福祉課主査 鶴巻重子／子育て推進課長補佐 菅原美樹／子ども家庭支援センター主査 工藤裕子／子育て推進課主査 齋藤真紀子／同課子育て推進専門員 田中若子／同課子育て推進専門員 上野和義／同課子育て推進専門員 富樫由美子／同課専門員 門間 久幸
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 1人
- 協議・報告事項  
(1)鶴岡市子ども・子育て支援事業について
  - ①令和5年度における特定教育・保育施設等の利用定員について（資料No.1）
  - ②第二期鶴岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて（資料No.2）
    - ・事業計画の進捗状況
    - ・中間見直し（案）
- (2)令和5年4月1日の入所児童数について（資料No.3）
- (3)その他（当日配布資料No.1、No.2）

## 1 開 会 事務局（子育て推進課長補佐）

## 2 委嘱状交付

## 3 挨拶（健康福祉部長）

事務局より審議会の成立報告

## 4 自己紹介

## 5 委員長及び副委員長の選出

委員長に佐藤豊継氏、副委員長に齋藤功氏を選出

## 6 協議・報告 〈議長・児童福祉審議会委員長〉

### 議長

それでは協議報告について、事務局の説明をお願いしたいと思います。最初に（1）鶴岡市子ども・子育て支援事業についての、①令和5年度における特定教育保育施設等の利用定員についてお願いいたします。

### 事務局（子育て推進課長）

令和5年度における特定教育保育施設等の利用定員を資料No.1により説明。

### 議長

ただいま説明がありました令和5年度における特定教育保育施設等の利用定員について、ご質問等がございましたらお願いいたします。

特にないようですので、次に進みます。

次に、②第二期鶴岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて、説明をお願いいたします。

### 事務局（子育て推進課長補佐）

第二期鶴岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて資料No.2により説明。

### 議長

説明ご苦労さまでした。それでは改めましてただいま説明ありました、事業計画の進捗状況、さらには中間見直し案について、幅広い説明でしたけれども、皆さん何かご質問・ご意見等よろしく申し上げます。

### 委員

P.6（4）の子育て短期支援事業（ショートステイ）のところで、七窪思恩園で受入をしていますが、この量の見込と確保量のところ、今年度は63名、今後の見込量も減ってくるとの検証ですが、このあたりは予算との兼ね合いがあるのでしょうか。七窪思恩園の空きスペースや乳児院さんの空き状況は常に変化しておりますので、このあたり気になりました。

それから、今後の法改正で、市町村の方からショートステイの利用勧奨やトワイライトステ

イの利用勧奨が行われるとみていますが、その点についての今後の見直しはどのようなのでしょうか。

### 事務局（子育て推進課長補佐）

量の見込みにつきましては、令和2年3月の本事業計画策定の前、令和元年6月にニーズ調査を行っております。その際の調査結果、また、策定前の年度等の利用実績から、量の見込み量を算出しておりますので、予算とはまた違ったところで算定をしております。

### 事務局（子育て推進課長）

子育て短期支援事業の利用勧奨を今後進めていくかについてのご質問でよろしいでしょうか。

### 委員

これまでだと利用したいという申し込みを受け、審査・アセスメントをして、それに応じて利用するということだと思っておりますが、法改正で今後は逆に、困っているご家庭に対して利用しませんかと声を掛けていく方向になる予定のようです。そのため、見込量が減っていくことについて少し違和感を覚えたものですから発言させていただきました。

### 事務局（子育て推進課長）

法改正に伴った利用者の見込の変更はこの計画に反映できておりませんので、そのあたりはどのような変化があるか見極めながら、第三期の事業計画に向けて検討していくことになるかと思っております。すぐに急激な増減が起こることは現在想定しておらず、この実績を見てもわかる通り、この何年かはコロナの影響を大きく受けて利用者が減少したことから、今後は元に戻るという想定で現在は計画しております。

### 委員

P.11の中間年の見直し案のところ、まず現在の0～2歳児の保育需要を少し確認したいのですが、国全体では2025年に保育の利用児童はピークに達し、その後は減っていくという見込を立てております。一方で従来から少子化が進んできて、0～2歳児の保育需要そのものは横ばいに推移してきたという経過があります。さらに一方で、育児休業を取る人が増え、取れる環境になったことは喜ばしいことだとも思います。これらのことから保育需要が今後どうなるかということに関連し、0歳児について推計人口の7割が入所すると見込んだ理由はどのようなもののでしょうか。また、計画年度から逸れてしまいますけれども、令和7年以降に関しても、もし予測しているものがありましたらお話しいただければと思います。

### 事務局（子育て推進課長）

0歳児の推計人口の7割を見込むというのは、現在の需要を反映しております。これまでは0歳児の出生数が減っていても、利用者数は伸びるという現象が起きており、現在はそれが横ばいの状態になっています。この状況を極端に変更することは難しいと考えています。働き方改

革や育児休業の取得が進むという想定は可能ですが、それをもって入所児童数の割合を減らすことについては分析できておりません。次期計画を見据えたニーズ調査を踏まえながら、そのあたりの精査を進める必要があると認識しておりますが、現在の計画への反映や今後の方向性を示すことは難しいと考えております。

## 委員

この中間年の見直し含めてですが、鶴岡だから良いなあというところは何でしょうか。また、鶴岡だからこそその課題とは何でしょうか。

例えば、5歳児の1人あたりの先生の数は75年間、戦後すぐから変わっていません。1人の先生が30人みる国はありません。ただ鶴岡だから、あと少子化も進んでいる中だから行うことができていると私は思っています。しかし、現在は子どもたち一人一人の良さが認められているものですから、この子たちにもっと目をかけてあげたいと、どの幼稚園、保育園も思っています。ただ30人の子どもを1人でみることは無理です。ですから、園ではお金を工面して保育士を雇っています。そして、それを鶴岡では行政の方で応援してくれて、いろんな保育士の募集を行政でしてくれます。それが鶴岡らしさです。数値で見るとは仕方ありませんが、その裏側にある想いを行政の方でも本当に考えてくれています。そういった見えない部分を、鶴岡らしい見直し案を作った後に、また支援いただければありがたいと思います。

子育ては、子どもを育てるだけでなく、保護者を育てるという点もあります。そして保護者は園を応援してくれています。うちの幼稚園でも、夏休みの特別預かり保育を行っておりますが、そういった中、またコロナ禍で預けたくないというところも当然ありました。そういった目に見えない事情もお含みいただければと思います。

本当に、行政の方では手広く支援してくださり、頭が下がります。鶴岡で子どもを育ててよかったと思えるような、そういう見直し案の先を期待したいと思います。

## 議長

ご意見ということでよろしいでしょうか。施策のところへの鶴岡らしさということでのご意見でございました。中間年と言いながらも、次期計画に盛り込むようなご意見をいただきました。

他にはいかがでしょうか。中間年の数字的などところは聞いたところとしまして、施策的などころも、中間年を踏まえて次期計画を目指したご意見はございますか。

## 委員

保育や学童保育といった登録型のものは、人口の推移に基づいて正確な予測ができるところかと思いますが、ファミリーサポートですとか、あとは病児保育ですとか、保護者の方が全員使って良いタイプの事業ですと、社会情勢によっていろいろ変わるかと思いますが、他の市町村であるとか全国平均と比べての利用率とか、人口あたりの利用数の見通しはできますでしょうか。

もし比較ができて、極端に低いのか、逆に高いのかということであれば、鶴岡頑張っているな、少し足りないな、という風に今後の計画に生かせるのではと思います。ちょうどにこ・ふ

るの方で子育てのワンストップ窓口もできたということで、保護者にはそのあたりの情報が伝わりやすくなっていると思いますけれども、他市町村や全国平均との比較は何かされてますでしょうか。

### 事務局（子育て推進課長）

他市町村との比較については、今のところデータを揃えていないため、後程そういったデータを揃えた段階で皆様にお示しできればと考えております。この支援計画は全国的に同じ年度、同じ期間で行っており、県が集計し、その後国が集計するというような階段式になっておりますので、データを揃えることは不可能ではないと思います。

そういった部分を分析しながら、次期計画を策定していきたいと思っております。

### 議長

よろしいでしょうか。ほかの委員の方いかがでしょうか。

### 委員

本来、この制度は待機児童ができたために大きな問題になり、いろいろな施策をやることになったものですが、昨今のニュースでは全国的には9割方の自治体では待機児童がいないと言われております。ただ一方、待機児童とするためには、保育園に入所できる条件があるにも関わらず、保護者の都合で辞退した場合は待機児童に入らないことが問題になっております。例えば兄弟だと1人は随分離れたところに入れと言われたという話も聞くので、そういう事例ですとか、そういう状況がどうなのか教えていただければと思います。

### 事務局（田中子育て推進専門員）

上のお子さんが、1号認定で入るということが決まり、下のお子さんとも同じ園への入園を希望されていましたが、他の園に入所調整したというケースはございます。

### 事務局（子育て推進課長）

何年前になりますが、兄弟が別々の園に調整されたケースは、どうしても0歳児の入所枠が少ないために多々ありましたが、現在はそれほど多くありません。ただ地域によっては、園の入所年齢自体を分ける園もあり、そういったところは、兄弟は別々の園に入るのが当たり前の地域もありますので、そこは該当しないかと思いますが、市内だとそういう事例は発生している状況です。

### 委員

ありがとうございます。実は以前の保護者の希望調査のデータを見ると、例えば入園希望の8割程度が認可保育園を希望していますが、そうならない場合があります。必ずしも保護者の希望する通りにいかないことは承知していますが、なるべく努力していただければと思います。

## 委員

子育ては本市の重要課題であるということが、本計画の市長のはじめにというところを書いてあります。重要課題である保育ニーズに応えるためという文章があるわけですが、それを受けて、本市の子ども・子育て支援事業計画の見直しが行われているものと考えられます。これがその計画のわけですから、その市長の文言の中には、幼児教育保育の質の向上と書いてありますし、その2行下には、子育て支援の充実と書いてあります。本日いただきましたこの資料には、確保量と実際どうであるかという数字を私たちは見せていただいているわけですが、その質の向上や充実というのは数のことをいうのでしょうか。

つまり、子ども・子育て支援事業計画の充実と、さらなる見直しをするというのであれば、先ほど委員からお話ありましたが、内容の充実、鶴岡市らしさのところ、私たちが委員となったからには推進させていただき、やっぱり鶴岡だと思えるような報告をいただけると良いのではないかと思います。

## 議長

計画の性格と思いますけども数字的なところを押さえながら根幹の施策的なところをどう評価するかと言うところかと思えます。またの機会に改めて議論になろうかと思えますけども、本日のところは数字的なところからの中間年の見直しということで、ご理解いただきたいと思えます。

それではこの中間年の見直しということですので、ただいまの説明、事務局が説明あった内容、さらには委員の皆様からの意見も踏まえまして、見直した上でさらに進めさせていただきたいということですのでよろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

次に、(2)の令和5年4月1日の入所児童数について、説明をお願いします。

## 事務局（子育て推進課長）

令和5年4月1日の入所児童数について資料No. 3により説明。

## 議長

それではただいま説明のありました令和5年4月1日の予定数でございますけども、ご質問等ございましたらお願いいたします

それでは、ご意見がなければ次に進めます。(3)のその他でありますけれども、事務局から何かございますか。

## 事務局（子育て推進課長）

当日配布資料No. 1、No. 2により説明

## 議長

ありがとうございました。何かご質問ご意見等ございますか。

## 委員

P.6 の、放課後児童クラブの登録者数が、現在 1,990 人ですが、これは全児童に対して何%でしょうか。

## 事務局（齋藤子育て推進課主査）

今年度の 1,990 人の登録者数は、今年度の 5 月 1 日の現在の登録者数がありますけれども、全児童数に比較して、35.8%となっております。

## 委員

まず、来年度の計画の中にも放課後児童クラブに関する事業を盛り込んでいただいたこと感謝申し上げます。また、市連協や意見交換会での要望書に丁寧に答えをいただいておりますこと、重ねて感謝申し上げます。来年度以降も引き続き検討協議事項等あるかと思っておりますのでよろしくをお願いします。

## 議長

それでは、そのほか皆さんの方で何かございますか。

なければ、以上で協議報告をすべて終わらせていただきます。皆さんご協力ありがとうございました。

## 事務局（子育て推進課長補佐）

佐藤委員長ご進行ありがとうございました。

では、7 その他 について、皆様から何かございますでしょうか。

## 委員

今回話題になっていませんが、子ども基本法ができて、4 月から子ども家庭庁ができるという話があります。実際どういうことがどういう風にされるかわかりませんが、いろんな話が出ています。少子化に対するエンゼルプランができたのがもう 30 年前です。その方たちが親御さんになられている時に、どこまで進むのかわかりませんが、医師会の方で母子保健検討委員会があり、そこからいろいろ課題が出ているので、若干お話をさせていただければと思います。

子ども家庭庁の議題の中にもいくつかありますが、やはりこれからかなり大変な時代になるだろうと思っております。子どもの貧困や不登校、フリースクールもありますが、これらに関して民間の NPO と協力を進めなさいというのが厚労省から出ています。

それから県の方、村山支庁や庄内支庁で子ども食堂の関係で会議をしてネットワーク作りをされているようなので、そこに市町村としてもぜひ積極的に連携を取ってやっていただければ、

もっと地域のきめ細かい部分が繋がるのではないかと思うので、そのあたりぜひお願いしたいなと思っています。

それから、例えば今問題になっているのは、リプロダクティブ・ヘルスと言いますが、妊娠に関わる問題です。よく赤ちゃんを捨ててしまったという話もありますが、例えば全国妊娠のSOSネットワークというものがあり、匿名で相談が可能です。ただ相談の窓口は新潟と宮城にはありますが、山形にはありません。電話自体は山形に繋がるため、そういった情報が皆さんに伝わっていけば、匿名でも電話ができます。

それから例えばヤングケアラーの問題も、これからどの程度この地域にそういう方がいるのかについて把握が必要です。

あと、子どもの時代に、ある程度のケアが要る子どもたちがアメリカでは12歳から17歳の調査で18%いるそうです。ある調査で10歳代の方に調査したら日本で12%、つまり小学校の1クラスに6、7人ぐらい援助の要る子どもたちがいます。発達障害から心臓病まで様々います。

それから厚労省の方で、AYA世代に関して現在取り組みをされており、小児がんも含めて10代から30代までの若い親御さんたちの世代で年間2万人ぐらいがんが発生しています。年間2万ということは県で言えば200人で鶴岡市であれば20人で、10年であれば200人です。

こういう方たちがこれから社会の中で生活をすることになるので、これらのことが鶴岡の中でどういう状況にあるのでしょうか。どうしなければならぬかはまだわかりませんが、鶴岡市の中では、どういう状況なのかについては、私たちに可能であればある程度知らせていただければありがたいなと思っています。そういう方面での、鶴岡市の現状がわかるような大きな取り組みがあったら、調査だけでもできれば随分違うかと思しますので、よろしく願います。

## 事務局（子育て推進課長補佐）

ありがとうございました。市の方でも来年となりますけれども、若者子育て世代応援プロジェクト事業としまして、先ほどのヤングケアラー、それから子ども食堂、医療的ケア児などに関して、実態把握のための調査を始める予定であります。企画部と健康福祉部が連携しながら、まず現状についての把握を進めていきたいと考えております。来年度になりますけれども、こちらの児童福祉審議会の方でもご報告しながら進めさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。貴重な情報提供ありがとうございました。

## 委員

保育士さんの園児に対する虐待がニュースになっておりました。以前の会議で、保育士さんの増員と、それから待遇改善についてお願いしたいという声もこの会議で出ておりました。手厚く子どもたちを見てくださる保育士さんもたくさんいると思いますが、人数と、待遇改善に関してはいかがなものになっているのでしょうか。以前、2、3年前の会議でその声をお聞きしましたが、よろしくお願いいたします。



## 事務局（子育て推進課長）

2年前と比べると、待遇改善としては、国も含めて処遇改善が昨年度から行われております。

本市としては国の補助メニューを使い、これから保育士の資格を取得する方や、そういった方を雇い上げた際に補助する事業を予算化して取り組んでおります。

現在メディアで話題になっているような不適切保育に関しましては、国の方では大規模な保育園へは、4、5歳児30人に1人の配置基準から、25人に1人と加算をつけるところで終わっている状況ですが、それで根本的な解決にはならないと思っています。まずは事故や不適切な保育の安全対策の確立を進めていくというのが現在の方針です。その後で何十年もそのままになっている配置基準ですとか、そういった根本的なところにメスを入れなければ、本当の対策にはならないのではというところで、現場の声も様々聞かなければならないと思います。今後そういったところを、鶴岡らしさになるかどうか分かりませんが、進めていけると良いと思います。

教育関係とも繋がっていかないと難しい部分がありますので、皆様の声や力を借りられればと思います。よろしくお願いします。

## 委員

先ほどの委員がおっしゃったように、発達障害と言われる子たちが、小学校でしょうけれども、6人から7人おります。そういう子たちが保育園にいて、大変悪い言い方で、扱いにくいといいますが、その子達に対して保育士さんたちが大変手厚く面倒を見てらっしゃると思います。心も体も忙しいのではないかと思われまますので、今後よろしくお願ひしたいなと思ひました。

## 委員

鶴岡市民間保育協議会の活動の一環としてお話させていただきます。民間保育協議会は、37の保育園・認定こども園で構成されておりますけれども、不適切保育の事件報道を受けて、保育士が逮捕されたということで、各園の保育士達は衝撃を受けておりますし、また緊張感を持って仕事しているような状況です。園長会の中でも不適切保育に関しての話し合いの機会を設けまして、全国保育士会で作成した、子どもの人権擁護のためのセルフチェックリストがありますが、それで各園の方で自分の保育を振り返る機会を持ち、保育士同士、不適切保育が起きないように自分の保育の振り返りですとか、保育士同士の話し合いですとか、そういった機会を各園とも設けているといったような状況ですので、報告させていただきます。

## 委員

私共の組織も同じように、チェックリストを使っています。実際は、保育士さん自身が気づいてないことがチェックに挙げられます。自分ではそんなつもりはなくても、よそから見ると危険であったから、いつも以上の声量が出てしまった等、無意識の中で行われることがあります。そのため、幼稚園連合会でもそうですが、まず、同僚性を高めようと、同じ仲間としての気づき合いを先生方同士で出していく必要があると話しています。先日のバスの事故、そして

虐待も含めて、背景にはそれがあります。

先生方は本当に忙しいです。全国的には保育所が足りないため、まず量の対策から始まりました。それで置き去りになったのは質です。質の問題が出てきて、同時進行で今慌ててやっているところもあります。

2015年には消費税をお年寄りの方だけでなく、子育てのためにも使おうと始めましたが、3,000億円が未だに足りません。足りない部分をそのままに、新しいことをまた行おうという話も聞こえてきますが、予算はどこからというのが置き去りになっております。私達も現場にいる先生方も本当に心配しています。

先生方の処遇改善も進んでいます。しかし、全国産業界全体レベルの平均と比べると、保育士さんの給料は5万円安いです。保育士さんたちには本当に頑張ってもらっています。コロナ禍でも、園を閉じることができない立場です。放課後児童クラブや児童館もそうですよね。そういう目に見えないところがたくさんあります。

行政の方でも頑張ってくれていますが、そんな中で一生懸命やっているということをご共有したいです。

### **事務局（子育て推進課長補佐）**

ご意見、お話、本当にありがとうございます。ほかにはございませんでしょうか。

それではこれもちまして、令和4年度鶴岡市児童福祉審議会を終了いたします。来年度は第三期鶴岡市子ども・子育て支援事業計画策定の取り組みに入りますので、児童福祉審議会を3回程行う予定であります。引き続き委員の皆様にはよろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

～午後3時30分終了～